

# 報告―第6回四極青雲会総会・記念講演および懇親会

平成28年5月14日(土)の午後5時半から、第6回四極青雲会総会・記念講演および懇親会が、大分市内のホテルで開催された。

総会では、27年度の活動報告および28年度の活動方針(案)、27年度決算および28年度予算(案)、その他の報告事項の3案が一括審議され、以下の事項が決定した。(1)年1回の総会(国内在住者対象)と定例会(原則年2回―主に大分県内在住者対象)の開催。(2)会報「青雲」第六号の発行。(3)大学との連携強化をはかりセミナー等を共同開催すること。(4)院入学希望者の発掘と勧誘に積極的に取り組む。(5)四極会本部・各支部主催の諸活動に協力する。以上に加えて事務局から、母校100周年事業の成功にむけて会員名簿の整理に協力すること、財政基盤強化のため入会金・年会費収入を増やすという2つのお願いがあり、最後に特別会員として、伊東多門氏(経済学部48回、筑波大学博士前期修了)の入会が承認された。(伊東氏の推薦人は当会の総務局長と大分大学の

下田先生)。審議事項は事前の持ち回り理事会で承認済みのため総会は短時間で終了し記念講演へ。

記念講演の講師は大分大学名誉教授の内野順雄先生。演題は「税の歴史―拾い読み」。

はじめにチャールズ・アダムスの書物の紹介。その冒頭、メソポタミアの粘土版に「領主や王より恐ろしいのは徴税人だ」と書かれていたとのこと。著者の指摘「時代は変わっても納税者と徴税者の関係に大きな変化



内野ゼミのOG・OB

はない」。「現代のコンピュータは古代エジプトの書記の包括的な監視よりすこしだけましなだけ」なども印象的でした。

ご講演の中心はユダヤ人の歴史と税の課税時代を、古代(エジプトから出国とイスラエル大國時代)、中世(ユダ大國時代)、さらに近代(民族離散時代)に3区分して、それぞれの時代の税体系の概要についてでした。豊富な知識に裏付けされたユーモアと宗教的なエピソードなど交えながらのお話でした。税の知識に欠ける受講者にとってはいかがなものかと心配でしたが、古代エジプトから人類史の系図をたどりつつ、理路整然と丁寧に編集されたレジュメのおかげで、とても分かりやすく有意義で記憶にのこる記念講演でした。

演題の一言「拾い読み」などとは先生のご謙遜。先生はさっと時間の許す限り多分野にわたる読書を日課になさっておられるのでは。ご多忙の折、本記念講演をご快諾いただきましたことに、改めまして厚く御礼申し上げます。

懇親会には経済学部・四極会本部・青雲会会員あわせて約60人が参加。なかでも内野ゼミ出身のOG・OBが多士済々集い、内野先生も懐かしい教え子との再会に感慨ひとしおのご様

子でした。設立当初から当会のモットーは、すべての会員が様々な違いを超えて、あくまでイーブンで対等な交流をするということでした。今回も年齢・社会的立ち位置など様々な違いを超えて懇談の輪がひろがり、中締めまで途切れることはなかったようです。3回生の大石昌子さんに会員を代表して、内野先生に感謝のお言葉を贈って記念品を贈呈して戴きました。関係者の皆様、多数のご参加ありがとうございました。

事務局 32回  
岩尾 明





第6回 四極青雲会総会 平成28年5月14日 於 大分センチュリーホテル